【第 17 回アジア新体操選手権大会　3 日目】

本日は個人および団体の総合決勝が行われ、喜田選手、鈴木選手は 4 種目、シニア団体は 2 種目に出場した。予選を経て迎えた総合決勝では、技術面だけでなく、連日の疲労や短いインターバルの中での集中力・対応力も試される 1 日となった。

【個人：鈴木菜巴】
決勝総合 15 位（4 種目合計得点：91.00）

《フープ》得点：24.60（DB 6.80/DA 3.50/A 7.10/E 7.20）
前日に個人総合予選を終え、世界選手権への出場枠が 1 枠と決定し、鈴木選手としては気持ちの面でも、またコンディション面でも厳しい状況ではあったが、予選の結果に影響されることなく、本日の準備を順調に進めた。
本番では、リスクの高い技にも果敢に挑戦し、繊細さからダイナミックさまで、鈴木選手らしい世界観を表現することができた。一方で、R の回転不足や今シーズンの課題であるフェッテピボットに不確実性が見られ、DB 得点を伸ばし切ることができなかった。また、ステップやフロアの使い方など、芸術面においても修正の必要性が見られた。

《ボール》得点：19.65（DB 4.60/DA 2.80/A 6.65/E 5.60）
決勝は 30 分弱という短いインターバルの中で 4 種目のローテーションが進行し、非常にタイトなスケジュールで行われた。直前のアップは順調で、仕上がりには問題なかったが、演技冒頭の R で投げ上げたボールが横に流れ、成立を試みたものの落下となった。その後も、エカルテターンでの回転不足、続く R での対応の乱れ、スケールバランスでの打ち返し DA における投げの軌道のずれなど、連鎖的な乱れが生じ、大きな失点へとつながった。

《クラブ》得点：25.35（DB 7.50/DA 3.20/A 7.35/E 7.35）
ボールで大きなミスがあった中でも、「どんな状況でもいつも通りやる」という意識を持ち、3 種目目に臨んだ。大きなミスなく最後まで演技をやり切ったが、フープ同様、エカルテターンの回転不足や DA の不正確な実施については、予選でも価値を取り切れなかった箇所であり、一つひとつの実施精度が得点に大きく影響することを改めて感じる内容となった。クラブは鈴木選手の代名詞とも言える演技であるが、A 得点は 7.35 に留まり、演技前半におけるつなぎや表情など、さらなる工夫と修正が求められる。

《リボン》得点：21.40（DB 5.20/DA 3.20/A 6.80/E 6.20）
冒頭でリボンの引っかかりが生じ、処理に時間を要したことで演技序盤の構成に影響が出

た。さらに終盤では投げの軌道が大きく乱れ、瞬時の判断で足を使ってリカバリーを試みたが、処理に手間取り正確性を欠く形となった。
最終種目は体力的にも厳しい状況であったが、最後まで気持ちをつなぎ、4 種目を踊り切った。

鈴木選手はこれまでワールドカップ出場経験はあるものの、世界選手権の枠を懸けたアジア選手権には初出場であった。今大会はベストコンディションではない中で、身体と気持ちのコントロールが非常に難しい状況であったが、その中でも最後まで戦い抜いた姿勢が印象的であった。
身体難度の精度や R、DA の正確性など修正点は残るものの、本番で持っている力を発揮するための準備力や安定性が、今後さらに重要となる。10 月に開催されるアジア競技大会への内定も決まっており、まずは身体を整え、さらに磨きをかけた鈴木選手の演技に期待したい。

【個人：喜田未来乃】
決勝総合 9 位（4 種目合計得点：103.20）

《フープ》得点：26.70（DB 7.60/DA 3.80/A 7.65/E 7.65）
後半の B グループ（予選 1〜9 位）に出場した喜田選手。全体として予選より落ち着きが見られ、一つひとつの内容を丁寧にやり切ることができた。最後の R が曲に間に合わず、1.0 の価値を失った可能性があり、DB 得点を伸ばし切れなかった点は惜しまれるが、全体として安定した内容であった。

《ボール》得点：26.10（DB 7.30/DA 3.50/A 7.65/E 7.65）
冒頭の DA を伴うエカルテバランスでは、予選でのミスを意識したこともあってか慎重さが見られ、軸が横に流れた。スケールバランスでは、DA の投げのタイミングが遅れたことでバランスが崩れ、DB・DA の価値を失った可能性がある。大きなミスなくまとめ、E 得点も 7 点台後半に乗せたが、DB の実施精度がさらに上がることで、より安定した得点につながると感じられた。

《クラブ》得点：24.75（DB 6.30/DA 3.60/A 7.30/E 7.55）
最初の R でクラブの回転数が多く、投げの高さも低くなったことで受けが間に合わず、0.5 の落下につながった。ラファエリターンでは途中で踵が下がり、ドゥバンフェッテでは途中から脚が下がったことで、回転中の小さな投げの DA 価値を失った。また、終盤では曲に間に合わず、一つの DA を実施できなかった。

《リボン》得点：25.65（DB 7.00/DA 3.90/A 7.45/E 7.30）
最終種目となる中、体力・精神面ともに厳しい状況であったが、最後まで集中力を切らさず演技をまとめることができた。予選同様、R の価値をやり切れたことは大きな収穫であった。一方で、身体難度のローテーションが正確に実施できなかった箇所も見られたが、E 得点は 7 点台に乗せた。後半種目になると身体の緩みが見られ、技術面に加えてフィジカル面の課題も感じられた。

4 種目を通して、喜田選手の個性や作品それぞれの世界観は、トップ選手の中でも十分に存在感を示していた。一方で、上位選手と比較すると、動きのスピード感、エネルギーの出し方、演技全体のつながりにおいて、さらに高めていきたい部分も見られた。
ウズベキスタンの IKROMOVA 選手は、高い身体能力に加え、演技全体のつながりの中で一つひとつを見せ切る力が、D 得点の高さにもつながっていた。また、中国の選手は惜しくもあと一歩 3 位入賞には届かなかったが、音楽に合わせた表現力と線の美しい身体難度を、明確な意図を持って実施していたことが印象的であった。
技術面だけでなく、フィジカル面を含めた総合的な強化が、今後さらに求められる。まずは、明日の種目別決勝で今の力を発揮したい。

個人総合決勝 上位選手（4 種目の合計得点）
1 位：IKROMOVA Takhmina（UZB）115.10
2 位：YERTAIKYZY Aibota（KAZ） 113.65
3 位：USOVA Natalya（UZB） 112.40

【団体：日本女子体育大学】
決勝総合 5 位（2 種目合計得点：48.40）

《ボール 5》得点：24.45（DB 4.90/DA 6.20/A 6.60/E 6.75）
出場選手：山岸聖菜、常住加留奈、中村林伽、東愛梨、森下璃子

今大会 2 回目の試技となった本日は、試技順 1 番という初日とは異なる緊張感の中で本番を迎えた。大会 3 日目となり疲労も見られる中、練習では集中力が散漫になりそうな場面もあったが、本番では最後まで集中し、大きなミスなく踊ることができた。初日と比べて全体的に落ち着いて実施できていた一方で、身体の緩みや身体難度の誤差が見られた。体力的にも苦しい中ではあるが、線の美しさや精度を高め、最終日に臨みたい。

《フープ 3 ・クラブ 2》得点：23.95（DB 4.50/DA 6.10/A 6.75/E 6.60）

出場選手：山岸聖菜、常住加留奈、中村林伽、東愛梨、熊坂華

ボール５終了後、短時間での調整を経て本番を迎えた。集中力と気持ちのコントロールが試される２種目目であったが、昨日に引き続き大きなミスなくまとめることができた。しかし、前方転回の足投げ交換が短く上がり、昨日と同じ箇所で同様の移動が見られた。単に「ミスがなかった」という結果に留まらず、一つひとつの技の質を高め、自分たちが魅せたい演技を最後まで表現し切ることが今後の課題となる。

団体総合決勝 上位国（２種目の合計得点）

１位：UZB　53.95
２位：CHN　53.80
３位：KAZ　52.85

総合決勝を通して、個人・団体ともに課題と収穫の双方が見えた１日となった。技術面、実施精度、フィジカル面、そして連戦の中での対応力など、今後の強化に向けた示唆も多く得られた。
大会最終日は種目別決勝が行われ、喜田選手がフープ・クラブ・リボン、鈴木選手がクラブ、団体は２種目に出場する。連日の疲労もある中ではあるが、日本チームとして最後まで自分たちの演技を貫き、ベストを尽くしたい。